

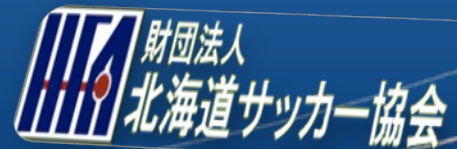
北海道トレセンキャンプ

U-13/14

2011年4月15～17日

【報告者】 山崎茂雄(NTC コーチ) 関浩二(U-13) 徳田恒徳(U-14)

場所 東雁来公園グランド・コンサドーレ札幌東雁来グランド
宿泊場所 札幌サッカーアミューズメントパーク内宿泊棟「夢きたれ」



2011-2012シーズンは トレセンで開幕

U-13・14 北海道トレセンは、ナショナルトレセン U-14 東日本前期の選考も兼ね、「夢きたれ」に宿泊をしての実施となった。冷たい雨の降る中でのトレーニングが多くなったが、選手達は集中力を切らすことなく最終日には、判断を伴った技術の発揮という点で一定の成果を上げることができた。

U-13

1. 良い点と課題

(1) 良い点(攻守)

- ゴール前の突破力、くさびのパスを奪う意識

(2) 課題(主に攻撃)

- 観てプレーする(特にボールを受ける前に次のプレーを考え観る事ができていなかった。)
- 正確なファーストタッチ(相手を観て遠い所にコントロールする。次のパスを考えてコントロールする事。)
- 正確なパス(ボールも大きくなり10M以上のパスが強く正確に出せなかった。)

U-13

- ポイント
- ・観る
 - ・正確な技術
 - ・ゴールを奪う
 - ・ボールを奪う
 - ・攻守の切り替えを素早く

スケジュール

- ・15日PM 『ポゼッション』、
- ・16日AM 『攻撃ゴールを目指す』
- ・16日PM 『守備ボールを奪う』
- ・17日AM 『ゲーム VS コンサドーレ札幌 U-14』

選手16名

函館3名、コンサ8名、札幌2名、道北1名、苫小牧1名、旭川1名



北海道での一貫指導をブロックトレセンから！！
日本代表とオリンピック代表を2015年までに輩出する！！
和歌山国体(2015)までには優勝を！！

U-13

2. ゲーム内容(30分3本 結果8-3で勝利)

- 相手が1つ上の学年でも臆することなく全体的にプレーしていた。その中で、ゴール前での突破からのゴールや、シュート打つ振りして横パスを出しゴールが生まれていた。突破とパスの選択肢を持った中でのプレーがありとても良かった。
- 練習でボールを奪う意識が足りなかったが、センターバックの選手が相手のくさびをインターセプトし、ボールを奪うシーンが多々あった。守備の部分でカバーの意識が足りなかったが今合宿で全てを要求するのは無理だと考えたので、あえて強く要求しなかった。今後日々のトレーニングで少しずつ改善でき、良い習慣が身に付けばと感じた。



3. 今後について

今回選手は積極的にプレーしていた。今後も、チームに帰ってから要求した5つのポイントを継続してやっていこうと伝えた。また道トレに選出されより高い目標である各年代の日本代表を目指す事も要求。その高い目標を実現するために、日々の練習を全力で

U-14

1. パス&コントロール

パス&コントロールでは常に正確にプレーしよう意識している選手が多くみられました。その中でも、タイミングを合わせることをもっと高めていきたいと感じました。これからの選手たちなのでパーフェクトではありませんが、ゲームで組み立てて行くために重要性を感じました。



2. 守備

守備においては攻撃権を得るために積極的にボールを奪いに行くことを意識してトレーニングしました。その中で、正しいポジショニング、優先順位、コミュニケーションについて働きかけていきました。トレーニングでは初めはボール保持者への寄せる距離が遠く、自由にプレーをさせている場面が数多くみられましたが、徐々に意識する選手が増えてきました。

3. ポゼッション

ポゼッションでは、「ゴールを目指すポゼッション」を意識してトレーニングしました。トレーニングでは、常に状況の変化を観て、「ポジション」をとりながらプレーをすることが課題としてみられました。

U-14

選手22名

函館4名、コンサ札幌6名、札幌4名、
コンサ旭川2名、千歳1名、室蘭2名、
十勝3名



4. ゲーム

最後のゲームでは、アンフィニU15の選手とゲームをさせていただきました。

ミーティングでは、「トレーニングしてきたこと」と「自分の特徴」が出せるように働きかけました。

選手たちは、トレーニングしてきたことを意識しながらも、自分の特徴をしっかりと出して、プレーをすることができていました。これからは、より適切なポジションをとりながらプレーすることが課題だと感じました。



まとめ

彼らは、スピード感のある変化をする最終年代であり、日々のトレーニングと合わせのこのキャンプでの刺激が、今後の成長のきっかけの一つになることを期待したい。

攻撃では、ボールを受ける前の準備(視野の確保やコミュニケーション)に細かな部分も含めた課題が見えた。ゴールを意識しながら相手の状況を観ることと、特にいつ何を観ておくのか、そしてボールを引き出しながら判断を伴ったプレーの質を向上させたい。守備ではよりの確なチャレンジ(1st ディフェンダーのアプローチと粘り強い守備)とゴールを意識したカバーリングポジションをとることで、意図的にボールを奪う回数を増やして欲しい。更にU-14年代では組織的(GKと連携をした)な守備へと発展したい。

今後、一環指導のピクチャーを各年代で整理した育成体制が構築できればこのキャンプがより密度の濃いものになるのではないかと感じた。例えば、我々指導者全体が「U-12年代でボールを受ける前の準備」などの到達度を共有して習得させることにより、U-13年代のスタートでは、「ハイプレッシャーの中での判断を伴った技術の発揮」を求めることが積み上げとして、できるのではないかと思う。

おわりに選手たちには、今回のキャンプを通じて感じたことを日々のトレーニングやゲームで生かして貰いたい。そしてピッチの中だけでなく、学校や家庭生活のオフの部分でも自立したフットボーラーに成長して欲しい。



(山崎茂雄)



北海道での一貫指導をブロックトレセンから！！
日本代表とオリンピック代表を2015年までに輩出する！！
和歌山国体(2015)までには優勝を！！